

新しい結（ゆい）を求めて～広報紙と自治会

今月号から「広報 高松」は、紙面のリニューアルを行いました。「みんなに伝わるやさしい広報紙」と「まちをもっと好きになる広報紙」という2つのコンセプトを掲げて、これまで以上に読みやすく分かりやすい紙面づくりを目指してまいります。また事業者や地域コミュニティ協議会を通じて、全世帯にお届けできるよう配布方法を見直し、発行回数は月2回から月1回に変更します。見直しに伴い減少する情報量を補い、情報の鮮度を確保するため、QRコードにより本市ホームページなどと連携して詳細情報を得ることができるようにするなど、さまざまな工夫もしてまいります。

「広報 高松」は、これまで自治会の皆さまの手で配布していただいていた。補完措置としてコミュニティセンターなどに配置するとともに、グループによる受け取りやホームページ上での閲覧も可能でしたが、自治会加入率が60%を下回る現状では、必要な情報が広く市民に行き渡らず、広報紙本来の機能と役割を果たし得ない恐れがあると判断して、今回の見直しに至ったものです。

ところで、私は、今年の年頭に当たっての抱負を表す漢字として「結（むすぶ）」を掲げました。物をつなぎ合わせる、集まる、そして、約束するという意味を持ちます。また、住民が助け合って農作業や手間替えなどを行う「結（ゆい）」と呼ばれる組織のことを表します。

広報紙は、文字や図画、写真を中心とした情報で市民と行政を結ぶもの。そして、自治会は人と人、人と地域を結ぶ住民自治の基礎となるべき組織です。「広報 高松」の配布方法も含めた全面リニューアルを機に、自治会の在り方を見直し、再生を図っていくことが必要だと考えています。言わば地域に合った「新しい結（ゆい）」を構築するための取り組みが求められるのです。

